

科目名	死 生 学					開 講 キャンパス	神 埼
担 当 者	五十嵐 雄 道						
開 講 年 次	4	開講期	前期	単位数	2	必修・選択	選 択
授業の概要 及びねらい	死生学は「死の観点」から生の意味を問い直すという試みである。そのためには知識の習得だけでなく、自らの死をどう考えるかという「哲学的な問い」が重要なポイントになる。「哲学」はものごとをことばによってできる限り本質的に認識しようとする営みであるから、授業ではディスカッションやグループワークなどを通じて自らのことばによって生と死、特に自己の死について様々な観点から認識を深めたい。なお、本授業は生死学の入門的な講座と位置づけ、具体的には講義だけではなく、前途のディスカッションやエクササイズ、できれば学外での実習なども含めた体感的な学びの場としたい。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 現代における「生と死」の捉え方について様々な現場の視点から理解を深める。 2) 死を自分の事として考え、自分のことばで話し、自らの死生観を深める。 3) スピリチュアルペインについて理解する。 4) 人権、人間の尊厳について理解し認識を深める。 5) 自分が生まれ、生きて、命終えるという事実を受け止め丁寧に生きることを学ぶ。						
学 習 方 法	講義、ディスカッション、グループワーク、エクササイズ、DVD視聴						
テキスト及 び参考書等	適宜資料配布						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート	◎	◎		○			40
授業態度			○				10
受講者の発表	○	○		◎			30
授業への参加度			◎				20
その他							
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	はじめに；死生学とは何か、ディスカッションについて学ぶ：講義、ディスカッション						
第 2 週	自己の死を考える：米映画『私だけのハッピーエンディング』を契機として：講義、エクササイズ、ディスカッション						
第 3 週	人権と尊厳を考える①：「米軍基地問題と原発問題」を考える：講義、グループワーク						
第 4 週	人権と尊厳を考える②：「ハンセン病の差別」を学ぶ：講義、グループワーク						
第 5 週	先端医療から生と死を考える①：「出生前診断を考える」：講義、グループワーク						
第 6 週	生と死を考える①：産婦人科医に「命の誕生と性」を聴く：講義、ディスカッション						
第 7 週	生と死を考える②：佐賀のホスピスを進める会メンバーと「死刑制度」を考える：講義、グループワーク						
第 8 週	生と死を考える③：『死の準備教育』：講義、エクササイズ、グループワーク						
第 9 週	生と死を考える④：精神科医に「自死」を聴く：講義、ディスカッション						
第 10 週	生と死を考える⑤：在宅医に「地域医療」を聴く：講義、ディスカッション						
第 11 週	人権と尊厳を考える③：「苦しむ人とのコミュニケーション」を考える：講義、グループワーク						
第 12 週	先端医療から生と死を考える②：「臓器移植」を考える(『私の中のあなた』を契機として)：講義、グループワーク						
第 13 週	生と死を考える⑥：救命救急医に「死生観」を聴く：講義、ディスカッション						
第 14 週	生と死を考える⑦：ホスピス医に「死生観」を聴く：講義、ディスカッション						
第 15 週	最後に：自己の生と死を考える：講義、エクササイズ、グループワーク						
第 16 週							
備 考	死生観を深めるために自分のことばで考え、話すことを重視したいので、授業においては積極的に発言してほしい。						